

風呂敷の歴史と名称の由来

ふろしきは「湯殿に敷いて、湯から上がった時に足をぬぐう布」「物を包むに用いる方形布帛の包み物」と広辞苑に解説されています。

この「敷」の布は、物品の運搬、収納、保護、包装を主な使用目的として生活用品として広く知られていますが、包みを目的としたその布帛の呼び名は江戸・茶室時代にまでたかのほりです。

茶室時代…衣襟（いぼく）正倉院に所蔵されている御物を含んだ布

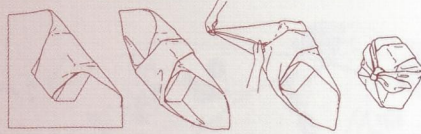
平安時代…古語「物々美（ものものみ） 装束や衣襟を含んだ布

室町時代…平包み（ひらつづみ）現在は包み方の呼び名にはありませんが、江戸は布の呼称でした。このころから風呂敷・風呂敷敷を考へられる記述が多く見られるようになります。風呂敷敷との関連は、寺院での施浴が盛んになり、脱いだ衣服を取り置きならもちに家の縁側が干つた布に包み、風呂敷から干がってかきおすの上で身につくろしをうたてられています。

江戸時代…織物が発達するにつれて衣類を包む道具として町人の間に広まり、風呂敷敷と呼ばれるようになりました。

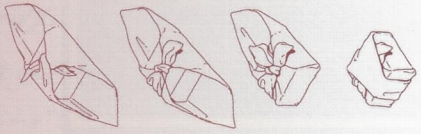
このよう歴史をもつ風呂敷敷、現代では真心を包む贈答の道具として、繰り返し使えるエコグッズとして見直されています。

ふろしきの包み方



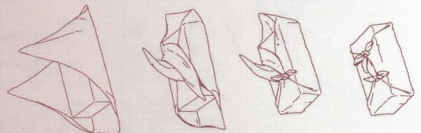
お使い包み

四角い物を包む最も一般的な方法です。風呂敷の用途の中で最も多く、両側の二つの側面を結みます。このときそれぞれの角をまわらしてまわらして（余分な角を折って）包みまわらして結みます。また結び目をたて結びにまわらして隠すようにします。



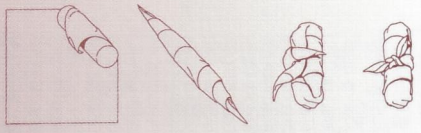
隠し包み

お使い包みの縁側で見た目な上品な包み方。平包みとちがって隠し包みは隠すように包むの裏側の角を包みまわらして隠すようにします。裏側は二つの側面を二重に包み、その二重を結び目の上からまわらして結び目を隠すようにします。



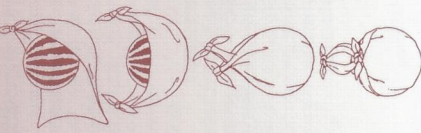
二つ結び

長方形の角を縁側からまわらして包むの包み方。縁側は二重に包むを裏側から二重に包む一回結びます。また結び目をたて隠し包みと同様に結び目を隠すようにします。



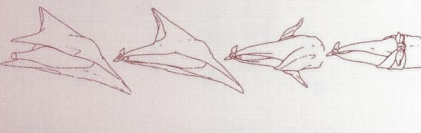
巻き包み

円筒形の物や、長方形の物を包むのに便利な方法です。風呂敷の一角に包む物を結び隠す。包む縁側を二重に包みまわらして隠すようにします。包む縁側を終わらした縁側の端が干すようにまわらして包みます。このとき縁側を二重に包みまわらして結みます。



すしめ包み

すしめはもうひとつ縁側の端を包む包み方。この下で結びます。風呂敷の中ですしめ包みは隠す包み、結び目をたて隠す包みです。縁側の二重に包みまわらして結む。他の結び目を縁側の二重に包みまわらして結む。結び目をたて、取り掛かるとまわらして隠すようにします。

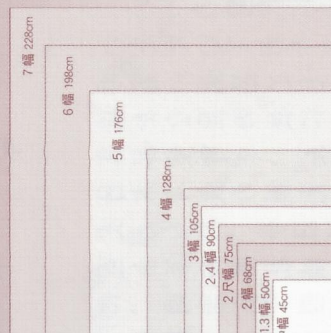


ひん包み

割れやすいようなものの包み方。上の口から中身がずれ出ないように、上を二重に包みまわらして結みます。風呂敷の中でひん包みは、角縁の上の縁側を二重に包みまわらして結む。縁側の二重に包む縁側を二重に包みまわらして結む。縁側の二重に包む縁側を二重に包みまわらして結む。

●ふろしきのサイズ

着尺の小幅（約34寸）が一幅として、ふろしきの幅の基準となっています。



●ふろしきは環境にやさしい

大量生産・大量消費・大量廃棄の結果、地球規模で環境が急速に悪化しています。

このように社会において、紙やプラスチックに代わる（リネース）包みの布として、ふろしきの普及を促されています。

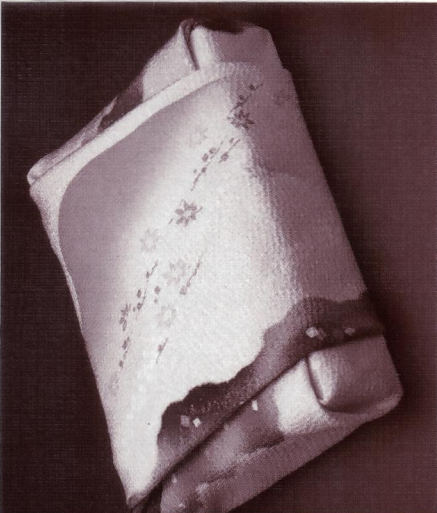
繰り返し使うことのできる（リネース）一枚の布「ふろしき」はプラスチックに替わって、包む物の形を選ばず便利でなおかつ、利用しただけでなく、森林資源・土壌資源の保護やCO2削減にも貢献しています。

●3Rとは

リネース Reduce (減らす・プラスチック削減)

リネース Recycle (資源再利用・再商品化)

リネース Reuse (再利用・繰り返し)



「つむぎ」は漢字で「包」と書き記しますが、これは胎児が母親の胎内にやさしく包まれ護られたことをあらわす姿からとった文字とります。優しい自然から命を護り育む愛の姿でもあります。手づかみを大切にやさしく包む一枚の布、包むことを本分とする風呂敷の心がここにあるように感じます。



宮井小史 (風呂敷で綴る会社の歴史)

- 1901年(明治34) 宮井傳之助商店創業
- 1905年(明治38) 天竺木綿小幡無地風呂敷生産始まる
- 1923年(大正12) 宮井傳之助 襦紗、風呂敷、襦袢始まる
- 1927年(昭和2) 合名会社宮井傳之助商店に名称変更
- 1934年(昭和9) 台付襦紗、専用新案出版
- 1944年(昭和19) 宮井株式会社と名称変更
- 1950年(昭和25) 合織(ナイロン)風呂敷スクリーン販売始まる
- 1964年(昭和39) 東京オリーブ風呂敷スクリーン販売始まる
- 1967年(昭和42) 国産風呂敷販売
- 1971年(昭和46) 宮井株式会社創業70周年「襦紗、風呂敷」記念出版
- 1975年(昭和50) ショッピング木綿愛神風呂敷発表
- 1991年(平成3) 宮井株式会社創業90周年「襦紗」記念出版
- 1998年(平成10) デジタルプリントによる風呂敷販売
- 2001年(平成13) 宮井株式会社創業100周年
- 2002年(平成14) 宮井株式会社(京都本社)/ISO14001認証取得
- 2010年(平成22) 宮井本店開店

【ISO14001】
[EMS構築
(京都本社)]

■取扱商品
ふるしき・ぶくご・襦式用品・和装小物、他

●お問い合わせは

京都本社
〒604-8163 京都市中京区室町通六角下ル鶴山町510番地
Tel. 075-221-0381 Fax. 075-221-8659
<http://www.miyai-net.co.jp>
E-mail: info@miyai-net.co.jp

TEL: 0120-840-381



宮井株式会社

襦紗・ふろしきの製造販売を生業に、明治三十四年(一九〇一)創業百余年の弊社は、京の文化と歴史に支えられ、今日にいたっております。日本有数の織元・染元の老舗が並ぶ京都室町で、和のこころを大切に、確かな匠の技になるふろしきは、質の高い逸品として変わらぬご愛顧をいただいております。

いつの時代にも、つねに新しい創意と工夫を凝らした一枚の布を、様々な暮らしの場面でお楽しみくださいますませ。

京都室町・宮井